



平成24年5月25日

各 位

会 社 名 大王製紙株式会社  
代 表 者 名 取締役社長 佐光 正義  
(コード：3880、東証第一部)  
問 合 せ 先 常務取締役 阿達 敏洋  
(TEL. 03-6895-1014)

(再訂正)

「平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

平成23年12月27日に公表いたしました標記開示資料に一部再訂正を要する箇所がありましたので、下記のとおり訂正いたします。

記

1. 再訂正理由及び損益影響額等

再訂正理由及び損益影響額等は、平成24年5月16日公表の「平成24年3月期決算の過程において判明した過年度の会計処理の誤りに係る有価証券報告書等の訂正報告書の提出、及び決算短信等の再訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、平成19年3月期から平成24年3月期第1四半期までのすべての決算短信等(中間・四半期決算短信を含む)を再訂正し、また、平成24年3月期第2四半期及び第3四半期決算短信を訂正し、本日(平成24年5月25日)公表しております。

2. 訂正箇所

訂正箇所が多岐にわたるため、訂正前及び訂正後の全文をそれぞれ添付しております。

以 上

(訂正後)

## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日  
上場取引所 東

上場会社名 大王製紙株式会社

コード番号 3880 URL <http://www.daio-paper.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 井川 意高

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長

(氏名) 魚田 敏夫

TEL 0896-23-9006

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績 (平成22年4月1日～平成22年12月31日)

## (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	305,368	△4.2	9,524	△47.3	3,708	△67.0	△2,887	—
22年3月期第3四半期	318,818	△10.2	18,088	27.4	11,227	20.5	2,355	0.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	△23.33	—
22年3月期第3四半期	19.00	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	697,379	129,664	14.6	822.19
22年3月期	703,549	132,689	15.1	857.38

(参考) 自己資本23年3月期第3四半期 101,769百万円 22年3月期 106,190百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	4.00	—	4.50	8.50
23年3月期	—	4.00	—		
23年3月期 (予想)				4.50	8.50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	413,000	△2.4	13,500	△41.7	6,000	△57.9	100	△95.8	0.81

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 \_\_\_\_\_）、除外 一社（社名 \_\_\_\_\_）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 129,018,785 株 22年3月期 129,018,785 株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 5,240,808 株 22年3月期 5,164,596 株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 123,816,083 株 22年3月期3Q 123,938,983 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記に記載した業績予想数値は、平成22年10月26日に公表しました内容から変更しています。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

上期には企業の業績判断の改善や個人消費の持ち直しなどから、国内経済は緩やかな回復への基盤が整いつつあるとの報道があったものの、当第3四半期連結会計期間においても円高と株価低迷が継続し、依然として個人消費や雇用情勢は改善しておらず、景気の先行きの不透明感から、景気改善の動きは足踏み状態となっており、引き続き厳しい状況が続きました。

このような状況のなかで、当社グループでは、高付加価値商品の開発・拡販を推進し、既存設備の生産効率の向上や変動費及び固定費の削減などの諸施策の実施により、収益力の強化を図りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、以下のとおりとなりました。

連結売上高	305,368	百万円	(前年同期比	4.2%減)
連結営業利益	9,524	百万円	(前年同期比	47.3%減)
連結経常利益	3,708	百万円	(前年同期比	67.0%減)
連結四半期純利益	△2,887	百万円	(前年同期比	－%)

主な品種別の販売状況は、以下のとおりです。

新聞用紙は、広告出稿量の減少等の影響により、販売数量・金額ともに前年同期を下回りました。

印刷用紙は、各企業の広告宣伝費圧縮に伴うチラシ・カタログなどの需要の減少、IT化の進展による広告媒体の多様化の影響を受け、販売数量・金額ともに前年同期を下回りました。

段ボールは、天候不順や猛暑の影響により青果物関係が軟調に推移した一方、飲料関係の需要が堅調に推移し、また、エコカー補助金の終了や家電エコポイントの半減を控え、自動車・家電関係の需要が一時的に高まったことなどにより、販売数量・金額ともに前年同期を上回りました。

衛生用紙は、10月にティッシュの新商品「エリエール+W a t e r」を発売するとともに、生活者の除菌・衛生意識の向上に伴い、除菌関連商品の新商品・リニューアル品を中心に新規顧客の獲得に取り組みましたが、市場価格の下落や安価な輸入品の増加などの影響により、販売数量・金額ともに前年同期を下回りました。

ベビー用紙おむつは、猛暑の影響によりスイミング・水遊び用途向けの「G O O . Nスイミングパンツ」の需要が堅調に推移したことなどから、販売数量・金額ともに前年同期を上回りました。

大人用紙おむつは、うす型パンツユーザーが経験しているモレの中で最も多い「股モレ」防止に特化した「股モレブロックうす型パンツ」を9月に発売し、新商品の配荷拡大を進めた結果、販売数量・金額ともに前年同期を上回りました。

生理用ナプキンは、3月にリニューアルした「M e g a m i」の配荷拡大を行うとともに、伸長する軽失禁カテゴリーのブランド「ナチュラ」において、軽失禁カテゴリーで業界初となる「羽つき」を9月に発売し、カテゴリートータルで配荷拡大を行った結果、販売数量は前年同期を上回りましたが、市場価格の下落の影響により、販売金額は前年同期並みとなりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6,170百万円減少し、697,379百万円となりました。主な減少要因は、現金及び預金の減少並びに減価償却によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,144百万円減少し、567,715百万円となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済によるものです。

純資産は、129,664百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.5%減少し、14.6%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年10月26日に公表しました連結業績予想を修正しました。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものでありますが、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①簡便な会計処理

(法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

法人税等の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定して算定しています。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないため、前連結会計年度に使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しています。

#### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しています。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益はそれぞれ9百万円減少し、税金等調整前四半期純損失は125百万円増加しています。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	129,163	136,070
受取手形及び売掛金	100,488	98,584
商品及び製品	34,787	29,292
仕掛品	4,814	4,462
原材料及び貯蔵品	17,677	16,718
その他	17,592	9,232
貸倒引当金	△459	△451
流動資産合計	304,065	293,910
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	72,136	74,538
機械装置及び運搬具(純額)	150,560	159,111
土地	89,634	87,248
その他(純額)	13,131	17,115
有形固定資産合計	325,462	338,014
無形固定資産		
のれん	12,059	12,625
その他	3,086	3,073
無形固定資産合計	15,145	15,699
投資その他の資産	52,576	55,849
固定資産合計	393,183	409,562
繰延資産	130	77
資産合計	697,379	703,549

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	45,050	41,566
短期借入金	62,140	64,819
1年内返済予定の長期借入金	84,203	81,970
未払法人税等	1,480	4,109
引当金	2,029	4,323
その他	54,534	44,455
流動負債合計	249,438	241,244
固定負債		
社債	35,640	40,886
長期借入金	259,517	264,541
長期設備関係未払金	5,486	7,072
退職給付引当金	13,388	13,124
役員退職慰労引当金	1,215	1,168
環境対策引当金	361	361
その他	2,668	2,460
固定負債合計	318,276	329,615
負債合計	567,715	570,860
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	30,415	30,415
資本剰余金	29,402	29,402
利益剰余金	59,882	63,753
自己株式	△4,159	△4,147
株主資本合計	115,540	119,423
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,665	△4,207
為替換算調整勘定	△11,105	△9,026
評価・換算差額等合計	△13,771	△13,233
少数株主持分	27,894	26,499
純資産合計	129,664	132,689
負債純資産合計	697,379	703,549



(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	318,818	305,368
売上原価	248,269	244,139
売上総利益	70,549	61,229
販売費及び一般管理費	52,461	51,705
営業利益	18,088	9,524
営業外収益		
受取利息	226	206
受取配当金	862	630
受取賃貸料	708	—
補助金収入	214	43
その他	975	1,648
営業外収益合計	2,988	2,529
営業外費用		
支払利息	6,842	6,297
その他	3,006	2,047
営業外費用合計	9,849	8,344
経常利益	11,227	3,708
特別利益		
固定資産売却益	26	232
国庫補助金	804	500
貸倒引当金戻入額	98	25
その他	314	217
特別利益合計	1,243	976
特別損失		
固定資産除売却損	438	406
固定資産圧縮損	752	452
投資有価証券評価損	—	5,156
その他	353	489
特別損失合計	1,544	6,505
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	10,926	△1,820
法人税、住民税及び事業税	3,821	1,748
法人税等調整額	747	△2,244
法人税等合計	4,568	△496
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△1,323
少数株主利益	4,002	1,564
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,355	△2,887

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

(訂正)

## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日  
上場取引所 東

上場会社名 大王製紙株式会社

コード番号 3880 URL <http://www.daio-paper.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 井川 意高

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 魚田 敏夫

TEL 0896-23-9006

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績 (平成22年4月1日～平成22年12月31日)

## (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	305,368	△4.2	9,524	△47.3	3,708	△67.0	△2,769	-
22年3月期第3四半期	318,818	△10.2	18,088	27.4	11,227	20.5	2,533	6.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	△22.37	-
22年3月期第3四半期	20.44	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	697,779	130,064	14.6	824.73
22年3月期	703,950	133,089	15.1	859.32

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 102,083百万円 22年3月期 106,430百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	-	4.00	-	4.50	8.50
23年3月期	-	4.00	-		
23年3月期 (予想)				4.50	8.50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	413,000	△2.4	13,500	△41.7	6,000	△57.9	100	△96.0	0.81

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 129,018,785 株 22年3月期 129,018,785 株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 5,240,808 株 22年3月期 5,164,596 株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 123,816,083 株 22年3月期3Q 123,938,983 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記に記載した業績予想数値は、平成22年10月26日に公表しました内容から変更しています。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

上期には企業の業況判断の改善や個人消費の持ち直しなどから、国内経済は緩やかな回復への基盤が整いつつあるとの報道があったものの、当第3四半期連結会計期間においても円高と株価低迷が継続し、依然として個人消費や雇用情勢は改善しておらず、景気の先行きの不透明感から、景気改善の動きは足踏み状態となっており、引き続き厳しい状況が続きました。

このような状況のなかで、当社グループでは、高付加価値商品の開発・拡販を推進し、既存設備の生産効率の向上や変動費及び固定費の削減などの諸施策の実施により、収益力の強化を図りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、以下のとおりとなりました。

連結売上高	305,368	百万円	(前年同期比	4.2%減)
連結営業利益	9,524	百万円	(前年同期比	47.3%減)
連結経常利益	3,708	百万円	(前年同期比	67.0%減)
連結四半期純利益	△2,769	百万円	(前年同期比	－%)

主な品種別の販売状況は、以下のとおりです。

新聞用紙は、広告出稿量の減少等の影響により、販売数量・金額ともに前年同期を下回りました。

印刷用紙は、各企業の広告宣伝費圧縮に伴うチラシ・カタログなどの需要の減少、IT化の進展による広告媒体の多様化の影響を受け、販売数量・金額ともに前年同期を下回りました。

段ボールは、天候不順や猛暑の影響により青果物関係が軟調に推移した一方、飲料関係の需要が堅調に推移し、また、エコカー補助金の終了や家電エコポイントの半減を控え、自動車・家電関係の需要が一時的に高まったことなどにより、販売数量・金額ともに前年同期を上回りました。

衛生用紙は、10月にティシューの新商品「エリエール＋Water」を発売するとともに、生活者の除菌・衛生意識の向上に伴い、除菌関連商品の新商品・リニューアル品を中心に新規顧客の獲得に取り組みましたが、市場価格の下落や安価な輸入品の増加などの影響により、販売数量・金額ともに前年同期を下回りました。

ベビー用紙おむつは、猛暑の影響によりスイミング・水遊び用途向けの「GOO.Nスイミングパンツ」の需要が堅調に推移したことなどから、販売数量・金額ともに前年同期を上回りました。

大人用紙おむつは、うす型パンツユーザーが経験しているモレの中で最も多い「股モレ」防止に特化した「股モレブロックうす型パンツ」を9月に発売し、新商品の配荷拡大を進めた結果、販売数量・金額ともに前年同期を上回りました。

生理用ナプキンは、3月にリニューアルした「Megami」の配荷拡大を行うとともに、伸長する軽失禁カテゴリーのブランド「ナチュラ」において、軽失禁カテゴリーで業界初となる「羽つき」を9月に発売し、カテゴリートータルで配荷拡大を行った結果、販売数量は前年同期を上回りましたが、市場価格の下落の影響により、販売金額は前年同期並みとなりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ6,170百万円減少し、697,779百万円となりました。主な減少要因は、現金及び預金の減少並びに減価償却によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,144百万円減少し、567,715百万円となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済によるものです。

純資産は、130,064百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.5%減少し、14.6%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年10月26日に公表しました連結業績予想を修正しました。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいたものでありますが、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### ①簡便な会計処理

(法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法)

法人税等の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定して算定しています。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないため、前連結会計年度に使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しています。

#### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しています。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益はそれぞれ9百万円減少し、税金等調整前四半期純損失は125百万円増加しています。

### (4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	129,163	136,070
受取手形及び売掛金	100,488	98,584
商品及び製品	34,787	29,292
仕掛品	4,814	4,462
原材料及び貯蔵品	17,677	16,718
その他	17,592	9,232
貸倒引当金	△459	△451
流動資産合計	304,065	293,910
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	72,145	74,547
機械装置及び運搬具(純額)	150,564	159,115
土地	90,020	87,635
その他(純額)	13,131	17,115
有形固定資産合計	325,862	338,414
無形固定資産		
のれん	12,059	12,625
その他	3,086	3,073
無形固定資産合計	15,145	15,699
投資その他の資産	52,576	55,849
固定資産合計	393,584	409,962
繰延資産	130	77
資産合計	697,779	703,950



(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	45,050	41,566
短期借入金	62,140	64,819
1年内返済予定の長期借入金	84,203	81,970
未払法人税等	1,480	4,109
引当金	2,029	4,323
その他	54,534	44,455
流動負債合計	249,438	241,244
固定負債		
社債	35,640	40,886
長期借入金	259,517	264,541
長期設備関係未払金	5,486	7,072
退職給付引当金	13,388	13,124
役員退職慰労引当金	1,215	1,168
環境対策引当金	361	361
その他	2,668	2,460
固定負債合計	318,276	329,615
負債合計	567,715	570,860
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,415	30,415
資本剰余金	29,402	29,402
利益剰余金	60,735	64,488
自己株式	△3,693	△3,638
株主資本合計	116,859	120,667
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,665	△4,207
為替換算調整勘定	△12,109	△10,030
評価・換算差額等合計	△14,775	△14,237
少数株主持分	27,980	26,659
純資産合計	130,064	133,089
負債純資産合計	697,779	703,950

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	318,818	305,368
売上原価	248,269	244,139
売上総利益	70,549	61,229
販売費及び一般管理費	52,461	51,705
営業利益	18,088	9,524
営業外収益		
受取利息	226	206
受取配当金	862	630
受取貸貸料	708	—
補助金収入	214	43
その他	975	1,648
営業外収益合計	2,988	2,529
営業外費用		
支払利息	6,842	6,297
その他	3,006	2,047
営業外費用合計	9,849	8,344
経常利益	11,227	3,708
特別利益		
固定資産売却益	26	232
国庫補助金	804	500
貸倒引当金戻入額	98	25
その他	314	217
特別利益合計	1,243	976
特別損失		
固定資産除売却損	438	406
固定資産圧縮損	752	452
投資有価証券評価損	—	5,156
その他	353	489
特別損失合計	1,544	6,505
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	10,926	△1,820
法人税、住民税及び事業税	3,821	1,748
法人税等調整額	747	△2,244
法人税等合計	4,568	△496
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△1,323
少数株主利益	3,824	1,446
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,533	△2,769

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。